

CAP

キャプナニュースレター56号

NA

5月5日のこどもの日、皆さんはいかがお過ごしだったでしょうか。

家族そろっての行楽も楽しいけれど、いつも子育てに大変なお母さんをねぎらうには、お父さんと子どもだけでお出かけするという手もあります。

「父親の子育て参加」と肩ひじを張るのではなく、父と子の時間を増やすことを心がけるのもいいのでは…。

56

Vol.

♥黄色いレシートにご協力をありがとうございます♥

みなさまのご協力で今回のイオン黄色いレシートキャンペーンによる助成で以下の品を購入することができました。

イオン店で黄色いレシートにご協力いただいた多くのお客様、そしてイオンの各店舗さま、ご協力どうもありがとうございました。

- ・熟田店 (¥23,600) CDラジ社、水切り加、急須など・木曾川店 (¥12,900) 封筒・瀬戸みずの店 (¥14,800) 2Lペットボトルお茶・高橋店 (¥41,600) コピー用紙・ドーム店 (¥27,500)
- 事務用品、生活用品・豊田店 (¥7,600) コピー用紙・南陽店 (¥3,500) コピー用紙・扶桑店 (¥8,100) コピー用紙・守山店 (¥14,900) お茶、やかん・弥富店 (¥12,700) 紅茶、台所マットなど・ワグナー店 (¥5,700) 2Lペットボトルお茶

✦CAPNAのリーフレットがSORA ソンタクラブ様のご寄附により新しくなりました。今回のニュースレターに同封しています。
また、メールアドレスもHPアドレスも以下のように変わりました。

✦ E-mail approach@capna.jp

✦ <http://www.capna.jp>

●今号より、ニュースレターの印刷と発送を名古屋ライトハウス光和寮(障害者支援施設)さまにご協力いただいています。

ご寄付 次の皆さまからご寄附をいただきました。お礼申し上げます。(2-3月、分順不同、敬称略)

【団体】三井住友海上火災、スマイルクラブ

【個人】矢満田篤二、鶴本康彦、片山千鶴子、田中喜美子、後藤宗理、木村剛、井階弥可、中村強士、早川真理、今西洋子、白石淑江、吉田衣里、中野公子、加藤英樹、水無瀬量瑞、高森裕司、山根香代子、小川律子、向山富雄、井上薫、五十嵐ベテ、三村道子、高木佳子、谷口紀美江、広瀬由利子、塩見明美、石田金司、服部高子、岡本洋子、和田好華、加藤幸子、谷田悟、他匿名4名

【ボランティア】隈元真理子、伊藤順子、鈴木文美子、柴田美智子、鈴木方子、岩城正光、桑名美幸、棚橋昌子、諸橋幸子、鶴谷知恵、兼田智彦、祖父江美智子、堀内久美子、木澤和子、宮崎律子、鈴木尚子、CAPNA 研修企画委員一同、上村順次、NPO ストップ、一宮市要保護児童地域協議会、NPO プラザ、名古屋市職労保育部会緑内分会豊川市役所、一柳藍子、山中洋子、高見うらら、山際加代、高浜市立南中学校、梅津大樹、他匿名7名

CAPNAニュースレター56号 (隔月刊40号)

2008年5月10日発行

発行 特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

編集 CAPNA事務局広報チーム

事務局 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-404 TEL052(232)2880、FAX052(232)2882

多重債務が招く虐待

中日新聞・白井康彦記者に聞く

格差社会の中、経済的な問題が背景にある虐待ケースが増えているようです。多重債務の問題に詳しい中日新聞生活部の白井康彦記者に、多重債務と虐待の深い関係について聞きました。



一子育て中の親が多重債務の問題をかかえることは多いのですか？

きわめてよくあることです。多重債務の相談会にオブザーバーとして参加すると、30代ぐらいの若い親のケースをよく聞きます。相談に来る人はまだいいのですが、多重債務の問題が原因で夫婦仲がめっちゃくちゃになったり、子どもへの暴力が生まれてしまうケースも多いようです。思春期の子の場合は、家庭の混乱から不安定になって、非行や不登校などの問題につながったりもします。複合的な問題をかかえる家庭が多いですね。

生活全体が投げやりになって、子どもの給食費を払わなかったり、育ち盛りに十分な栄養を与えられなかったりするの、一種の虐待ですね。借金返済のためにお母さんが夜に仕事に出て、子どもの生活のリズムや食事がめっちゃくちゃになったりすることもよくあるようです。そもそもバブル崩壊以降、各企業が正社員の採用を減らす中で、フリーターや派遣の仕事をする若い人が多くなった。年収300万円にも届かない人が増えています。ところが、結婚して子どもができてしまうと、共働きもすぐには難しい。そうした状況で、夫の借金が発覚したりすると、もう悲惨な状況になりますよね。

一どうして借金をつくってしまうのでしょうか？

中には、ギャンブルにのめりこんだり、ストレス解消のために異常な勢いで買い物をするような人もいますが、たぶん、多重債務に陥る人の多くは、本人としてはそんなに浪費をしているつもりはないはず。小遣いが少し足りなくて、消費者金融で借りた。その次の月も少し足りなくて、といった繰り返しで、限度額いっぱいまで借りると、次の消費者金融に、という形で金利がかさんでいき、いつの間にか数百万円になってしまう。消費者金融の無人の支払機が増えて、借金をするという抵抗感が薄れてしまったことは大きな問題です。

私は、多重債務の一番の問題は「家族に内緒で借金をすること」だと思います。ギャンブルにしろ、酒などの遊びにしろ、やましいことがあると、なかなか家族に言えない。でも自力で解決のつく問題ではないから、夫がこっそり実家の親に頼んで返済をしたりする。「女房には内緒してくれよ」と感じて。でも、生活習慣に問題があるわけだから、返済してもまた借金ができてしまう。こういうのがばれると、夫婦関係は完全に冷え切ってしまうですね。それと、結婚前から借金があったのに隠していたというケースも多いです。これも騒動になりやすい。いずれにせよ、子育て環境としてはかなり問題が多いわけ。多重債務の問題は早期に相談すれば、いろんな解決策があるのだから、隠さないこと、生活を見直すことが重要です。

一どんな解決策があるのですか？

債務整理を手がける弁護士や司法書士の間では「過払い金の回収」が盛んに行われています。簡単にいえば、債務者が貸金業者に返しすぎたお金を取り戻すことです。大半の貸金業者は、出資法の上限である年29.2%のすれすれで貸し付けを行ってきました。でも、利息制限法という法律では、利率は10万円未満の場合20%、10万円以上100万円未満の場合、18%、100万円以上の場合、15%と定められています。この出資法と利息制限法の金利の差の部分グレーゾーンと言います。

貸金業者は、出資法を超える金利で営業すれば刑事罰の対象になるけれど、利息制限法の金利を超えても罪には問われない。だから、出資法の利率で計算し直すと、過払い金が発生して、弁護士や司法書士の行う手続きによって、回収できることも多いのです。返済額が大幅に減ることも珍しくはありません。

ほかにも、簡易裁判所を利用して、調停委員に間に入ってもらい、貸金業者と交渉する「特定調停」が有効な場合もあります。最後の救済手段は自己破産で、裁判所に申し立てて借金が払えないことを宣告してもらいます。でも、自己破産に至るまでに、いろんな解決方法があることを知ってほしいです。とにかく早期の相談が大事です。

一自殺や無理心中の悲劇を減らすためにも、相談する勇気を持ってほしいですね。

自殺者が年間3万人の状況は本当にただごとではありません。警察庁のまとめでは、経済的な問題が背景にあるケースは、全体の25%ほどとなっていますが、「精神的な悩み」の背景に多重債務があることも多いですから、実際にはもっと高率なのだと推測しています。相談会で出会う多重債務の方の中には、自殺未遂の経験のある人もいます。複数の貸金業者に返済し続けていくストレスで大変です。返済の資金をどう工面すればいいかと、昼も夜も悩み続けて、うつ状態になっていきます。ヤミ金業者に高利の借金をしてしまうと、督促に追い立てられて、さらに悲惨です。挙句の果てに、子どもを道連れに…なんてことになったら、これほどひどい虐待はありませんよね。

一多重債務がこれだけ深刻な問題になるのは、欲望に抑えの効かない未熟な大人が増えているせいでしょうか？

確かに、支出を収入の範囲内に抑えることは、大人としての自立の基本です。それができていない人が非常に多いのは、未熟とも言えると思います。でも、逆にいえば、非常に落とし穴の多い社会なのに、金銭管理について教育がなされていない、という問題を痛感しています。たとえば、あちこちの家電ショップ、DVDのレンタル店などで、クレジット機能のついたカードを作ると、商品が安くなる特典があります。店員に言われるまま、安易に何枚もクレジットカードを作る人もいるけれど、そんな必要性ってどこにもないと思います。むしろ、クレジット払いが増えれば、「収入の範囲での支出」という大原則があいまいになって、借金が鈍感になってしまう。そうした怖さを、中学、高校のころから、きちんと教えていく必要があります。車にしても、自分の年収を上回るような高級車に乗っている若者って少なくないです。分割払いの最中に事故を起こして、廃車になってしまうと、また次のを買う。これも、分割払いで感覚がマヒしてしまうためですね。

自分の出費の内訳をチェックし、安易に借金をしない。そういう心構えを子どもたちに植え付けていくことも、親の大事な役割だと思います。